

深浦町防災訓練



一秒でも早く高台へ逃げる
（心と物の備えを）

5月24日、全町あげての防災訓練が行われました。午前10時、緊急一斉放送及び緊急エリアメール伝達と同時に実施された訓練には、各小中学校や福祉施設、自治会などが参加し、41年前に発生した日本海中部地震を教訓に、防災への意識を高めました。

この日は、日本海沖を震源とするマグニチュード7・8の大地震が発生し、町内全域が震度6強以上の揺れを観測。町に大津波警報が発令され、高さ10mの津波が襲来し吾妻川橋が崩壊。さらに、土砂災害により道路が寸断され、孤立集落が多数発生した事態を想定しました。地震発



災害対策本部の様子

生の放送を受け、参加者は慌てず、落ち着いた様子で各避難所へと避難し、経路を確認しました。

また、深浦中学校（岡町）に災害対策本部を設置し、町内13地区に配置された担当職員が、県総合防災情報システムを活用し、スマートフォンで各地区の避難者数と、現地の様子を撮影し送信。災害対策本部で受信し、リアルタイムでの被害状況を把握しました。

今回の防災訓練では、自衛隊とNTT東日本による防災学習会も開催され、自衛隊による心肺蘇生やAEDの使い方、止血などの応急処置の仕方。NTT東日本によるAR（※）防災訓練、地震VRと津波VR体験が行われました。地震VRで



ボランティアセンター設置訓練

は、地震発生時の部屋の様子を實際の目線で体験。津波VRでは、障害物が設置された場所を、津波により浸水した道路と想定し、浸水した道路の映像を見ながら傘を杖代わりに歩く体験をしました。

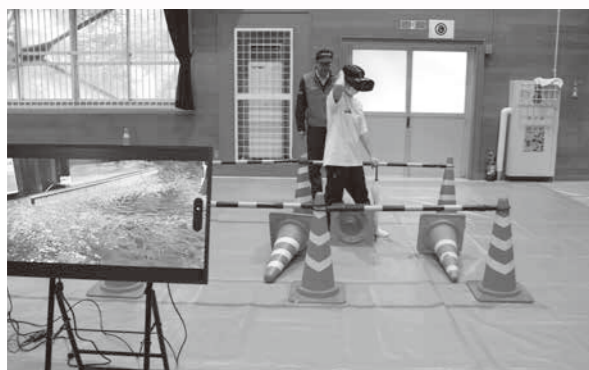
生徒たちは、何もないように見えても、浸水している道路には様々な障害物があり、歩くときは注意が必要なことを実感していました。

今年の訓練では、初めて深浦町社会福祉協議会による「ボランティアセンター設置訓練」も行われ、被災後の復旧時に、ボランティアを受け入れることを想定し、一連の流れを確認しました。

※ARとは拡張現実という意味で、現実世界にデジタル情報を付加する技術です。

【町の防災対策】
町では、令和5年2月に防災ハザードマップを新たに作成・配布しています。

ハザードマップでは、津波による浸水区域や大雨による土砂災害警戒区域、各地域の避難所などが掲載されていますので災害に備えて住居周辺の避難所などの確認を心がけましょう。町では今後とも、有事の際の備えとなるよう計画的な防災基盤の強化を図ることにしています。



浸水した道路を歩く体験をする生徒



地震VR訓練

深浦町防災訓練講話

深浦町防災訓練が5月24日、町内全域で実施されました。まずもって怪我や事故の報告も無く、整然と訓練が終了できましたことは、関係各位の御協力と町民の避難行動が適切に行われた結果だと思っています。

去る、1月1日に発生した能登半島地震ではマグニチュード7.6の激しい揺れが北陸地方に甚大な被害をもたらしました。更にこの地震によって引き起こされた土砂災害、火災及び液化化現象で物流や給水が断たれるなど住民生活に多大な影響を及ぼし、自然災害が持つ莫大な力に改めて驚愕しています。

今年度は、日本海中部地震から41年目になりました。「甚大な被害、津波の恐怖を決して風化させてはならない。」との思いを、改めて町民と共有したいと思っています。

今年度の防災訓練も地域住民と、修道小学校児童による避難所設営訓練を併せて実施しており、災害発生時における共助の意識、地域が連携した防災対応の重要性を深く認識いただけたものと感じています。

また、陸上自衛隊の御協力により深浦中学校及び修道小学校において防災学習会を行ったほか、女性消防団員と合同の炊き出し訓練も実施しました。

さらに県内の防災訓練では、初めてとなるNTT東日本の「AR防災訓練」も行われました。地震と津波のリアルなVR体験は、誠に貴重な体験です。御協力下さいましたNTT東日本の皆様に感謝いたします。また今年度、新規の訓練としてボランティア

センター設置運営訓練を実施しました。ボランティアの受付から派遣に至る一連の流れと社会福祉協議会職員の運営要領を確認することができ、災害発生時における円滑かつ有効な運用に生かしていただきたいと切に願うものです。

次に災害対策本部訓練ですが、昨年に引き続き会場を深浦中学校に設置しました。今年で2年目になりますが、より本番に近い状況で訓練できたと感じています。

災害はいつ発生するかわかりません。訓練で出来ないことは本番で出来ないことを肝に銘じ、訓練のための訓練ではなく、実効性ある訓練を今後も実施していく必要があります。職員及び関係者の皆様にはいつ災害が発生しても滞りなく円滑に対処し、町民の安全・安心に繋がるよう努力を継続して貰いたいと思います。

また、町民一人ひとりが「災害は忘れた頃にやってくる。」を思い出し、自主防災組織を中心とした訓練と防災意識の高揚に取り組んでいただきたいと思います。

結びに、今回訓練に参加協力してくださった鯉ヶ沢警察署、鯉ヶ沢地区消防事務組合、陸上自衛隊第39普通科連隊、NTT東日本、深浦町消防団の皆様へ、改めて感謝申し上げますとともに、参加していただいた町民の御協力に感謝申し上げ、訓練の講評といたします。

令和6年5月24日
災害対策本部長 町長 吉田 満